

インボイス問題
動画で解説中

中小業者の営業を脅かすインボイス制度の問題点や危険性についてわかりやすく解説した動画を配信中です。



東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

印刷部数11万1500部
(購読料は組合費のなかに含まれています)
(年間購読料 千八百円) 定価 五十円

東京都新宿区北新宿1-8-16
東京土建一般労働組合
電話03 (5332) 3971 (代表)
FAX03 (5332) 3972
発行人・編集人 三木 勉



27人で目標達成した京葉第二分会

京葉第二 日曜行動で目標到達 集まり訪問し支部けん引

10月17日10時に、京葉第二分会の仲間17人が分会センターに集まり、日曜行動に取り組みました。全都的に、コロナ禍で今まで通りの分会活動ができず、試行錯誤を重ねる状況が続いています。そのよ

うなかで、京葉第二分会は積極的に集まり、訪問することで支部をけん引する役割を果たしてきました。分会目標27人に対して25人まで加入を進めるなかで、遠藤茂夫分会長は冒頭のあいさ

つで「今日で目標を終えたい」と述べました。駆けつけた支部の武山文彦副委員長、高田智子常任執行委員からは支部全体の状況が報告され、本部の山本繁樹専従からは「支部では月次支援金やCUCUSカードの申請での相談活動を成果につなげていく貴重な経験を作っていた」とのお

礼の言葉がありました。

あいにくの雨で、「東京土建ならワンストップ解決」とうたった支部独自のチラシのポスティングは中止となりましたが、分会長を先頭に組合員訪問を敢行。強めの雨の中、この間継続的に働きかけてきた対象者などを再度訪問しました。分会センターでは本部が

豊島から 更なる成果上積み 防災ラジオで始まる対話

秋の拡大もいよいよ最終盤の10月22日、豊島支部のこれまでの到達は3・5%目標74人(支部目標は85人)に対して64人の到達。目標まであと10人に迫り、達成に向けていよいよ秒読み段階に入りまし

た。この日、さくら分会では10人の仲間が分会センターに集まり、目標9人の達成を祝う

とともに更なる上積みに向けて行動開始。2班に分かれて仲間を訪問に出かけました。

「分会ごとに訪問グッズを作っていて、さくら分会は防災ラジオ。持ってきたと言うと皆ドアを開けてくれる」と、駆けつけた土橋支部委員長。山田常任も、「うちの分会は何も言わなくても皆がしっかりと動いてくれるので助かる」と

と言います。

途中ひどい雨に降られながらも5件の訪問を終えた2班がセンターに帰還。その間に、1人新規加入が決まり、超過達成となりました。支部もこの日、12人の成果があり、3・5%目標を超過達成。このまま勢いに乗って、支部目標85人に向けて奮闘を続けます。



目標達成で「咲きました」、さくら分会



報奨アップチャレンジに挑戦する第3分会

八王子 目標を超過達成 全部盛りの報奨に熱気

八王子支部は秋の拡大終盤決起集会を10月25日、八王子労働会館で39人(本部3人含む)の参加で開催。開会にあり矢吹一幸委員長は2カ月の取り組みへの

奮闘に感謝し、本日の目標達成への成果持ち寄りを期待しますと挨拶しました。各分会からの報告では、すでに第3、第4分会は目標超過で達成していましたが、第3分会を始め、9つの分会と事業所分会が成果を持ち寄り、9分会が目標達成。支部全体としては27人の成果で累計は83人。79人の支部目標を超過達成しました。

全分会に報奨(ビール、お茶それぞれ2ケース配布)が用意され、本日まで目標達成した分会は抽選箱の中から選んだボールの色でさらに倍になる報奨アップチャレンジに挑戦。9分会はすべて2種類全部盛り2倍アップ+お菓子セットを獲得。会場は熱気に包まれました。

最後に久保哲也組織部長が超過達成した力をこれから来年に向けての組織活動でも発揮していくと述べ、塩野明彦副委員長が閉会挨拶と目標達成がんばったぞーを行ない終了しました。

朝やけ

第6次エネルギー基本計画は、環境問題に取り組み諸団体から、原子力と化石燃料を重視し、福島第一原発事故の被害や気候危機の切実さを踏まえていないと批判されているが、事前のパブリックコメントで、国際環境NGOのFoE Japanは「エネルギー供給のための各種施設の建設や燃料の生産が、森林伐採や温排水などにより陸域や海洋の生態系に大きな影響を与えることもある」と、基本計画に生物多様性保全の観点を取り入れるように意見していた。

これに対して、経済産業省は「気候変動の観点のみならず周辺環境との調和を図ることも重要である」と考えており、「周辺環境との調和」には御指摘の生物多様性の保全の観点も含まれている」と素っ気ない回答を返している。

政府は福島第一原発の汚染水の海洋放出を決定しているが、汚染水には通常の原発からの排水と異なり、トリチウム以外にもヨウ素129、ストロンチウム90などの放射性物質が基準を超えて含まれている。海洋生物がこれらの放射性物質を取り込むことを無視している。多様な生物の生存が危うくなれば、人の生活にも影響がでる。それは風評被害を超えるものになるだろう。原発をベースロード電源とする基本計画は見直しが必要だ。